

公表

令和7年度 放課後等デイサービス 自己評価結果表

事業所名 おひさまはうす

公表日 令和8年2月27日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		現在のスペース(30㎡)に合わせて利用人数を制限している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		子どもたち個々に丁寧な関わりができるよう十分な職員数を確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		事業所内に段差はなく、車いすのまま利用できるようにトイレスペースも広く確保している。子どもの状態に応じて個室も用意している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の丁寧な清掃を心掛けている。安全点検もこまめに行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室や音楽室などを個別に対応が必要な場合に使用している。使用できる環境を整えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員一人ひとりが目標を立て、定期的に自己評価を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善に繋げているか。	○		定期的に会議の場を設けて、広く意見を募りながら、それを業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか。		○		今年度年初に県内の第三者評価事業者に問合せしたが、評価調査費用が予想外に高額であったため断念した。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		オンラインの研修等に参加したり、職場内での研修や実践報告検討会を実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		STやMTといった個別療育時の姿勢も踏まえて、複数の観点から計画の作成をしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		こどもたちに関わる職員全員で話し合い共通理解しながら、子どもたちにとって最善の利益は何かを検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		子どもたちの個別支援計画に沿った活動を立案している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		毎日、支援後の振り返りを実施して、個々のこどもの状況を把握し、職員で共通理解している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ミーティングの場を設け、担当スタッフが集まり、子どもの実態を踏まえた上で活動の立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定しないように意識しながら、子どもたちの興味や関心に即したプログラムを毎月検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		STやMTといった個別療育と連携しながら、計画を作成している。集団活動のみでは対応がむずかしい場合には個別活動も設定するようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しチームで連携して支援を行っているか。	○		子どもの実態を考慮した活動となるよう毎日細かく打ち合わせをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		情報共有の場を設けている。個々の子どもの状況を共通理解する貴重な機会としている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日のうちにしっかり記録を取っている。個別支援計画作成時には記録を振りかえり、支援の改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		担当スタッフ間で話し合って見直し、継続や変更を判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○			

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		スタッフで話し合い、最もふさわしいと思われるスタッフが代表して積極的に参画するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		紙面やFAX、SNS等を通じて学校との情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			おひさまはうすの児童発達支援利用者は情報共有しているが、今後、必要だと判断した場合、他事業所等とも情報提供を行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		今後、必要だと判断した場合、情報提供を行う。又、事業所等から情報共有の依頼があれば必要に応じて情報提供を行いたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		関連専門機関の会合や研修に積極的に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		近隣公園で地域の子たちが遊んでいる場合等には、声をかけて一緒に遊ぶ機会を作っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		草津市障害者自立支援協議会に積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳への記載と送迎時になるべく具体的に伝えるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要に応じて、支援の仕方について具体的にアドバイスしている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に細かく説明をしている。また、問合せがある場合はその都度説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		機会を見つけて保護者と話し合うようにしている。また、必要に応じて関係機関につなぐなどして支援を進めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		事業所主催のイベントを開催して、放課後等デイサービスのみならず、児童発達支援、日中一時支援の垣根をこえて保護者が交流する機会を毎年作っている。	保護者のニーズを聞き取りながら、今後の対応を検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月末にカレンダーを配布することで、行事予定については周知している。	今後はより事業所の取り組みや活動の様子などを掲載した通信を発行できるように努めたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		発語がむずかしい児童でも支援者に要求を伝えられるように、物や場所を写した写真カードやかな文字表等を使用。保護者については公式LINEを運用。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域住民に対する啓発や理解を進めることは今後の課題として考えていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		会議や研修会を開催して、職員に周知するようにしている。	保護者については今後よりしっかりお知らせするように考えていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年に2回訓練を実施している。又、所轄消防署、草津市危機管理課にも報告している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		健康面の配慮が必要な児童については、保護者に細かく聞き取りを行っている。アレルギーのある児童については特に細心の注意を払い対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、会議の場を設けている。また、虐待防止研修も設定して、学べる機会を設けている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束適正化委員会を設置し、会議の場を設けている。指針も整備して対応している。	